

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな 経済フラッシュ

## (日本3月調査日銀短観)

2018/4/2

りそなホールディングス 市場企画部



### 概況

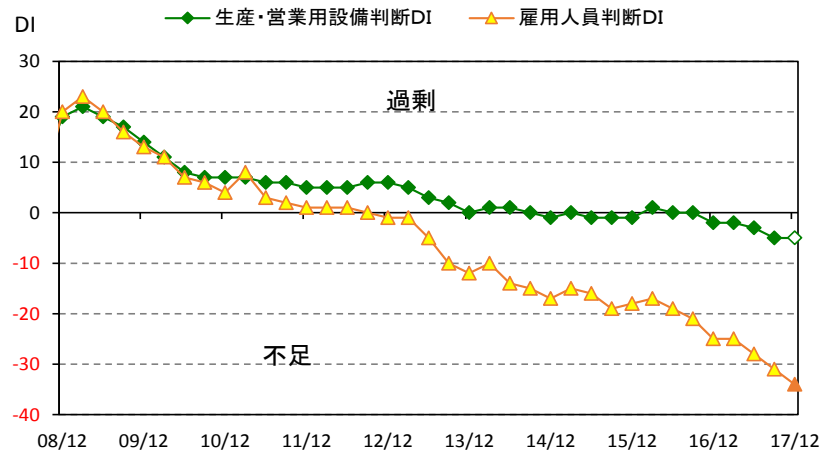
- ◆ 大企業・製造業景況感DIは低下、先行きの業況判断DIは軒並み低下
- ◆ 2018年度の想定為替レートは109円66銭
- ◆ 2018年度設備投資計画は底堅い

- ✓ 大企業の業況判断DI（業況が「良い」と回答した企業 - 「悪い」と回答した企業）は、製造業、非製造業共に前回調査から低下（製造業：26→24、非製造業：25→23）。2017年12月時点の調査では、先行きDIは製造業：21、非製造業：20が見込まれていた。
- ✓ 事業計画の前提となる2018年度の想定為替レート（大企業・製造業）は1ドル109.66円であった。2018年度上期が109.63円、下期が109.68円となっている。2017年度（1ドル110.67円）から円高に傾いた。回答期間の市場レートは1ドル104～107円台だった。
- ✓ 大企業における需給判断DI（「需要超過」-「供給超過」）は国内の製造業（▲1→0）と「供給超過」が解消。一方、非製造業（▲7→▲5）は依然「供給超過」の状態。海外の製造業は4（12月時点：3）、先行きの判断は4だった。
- ✓ 全規模全産業の雇用人員判断DI（「過剰」-「不足」）は▲34と、12月時点（▲32）からマイナス幅が拡大。業種別では、製造業（▲24→▲28）、非製造業（▲37→▲38）共に不足感が強まった。
- ✓ 全規模全産業の生産・営業用設備判断DI（「過剰」-「不足」）は▲5（12月▲5）。業種別では製造業が▲5（12月▲5）、非製造業が▲4（12月▲5）。製造業・非製造業共に「不足」の状態。
- ✓ 2018年度の大企業・全産業の設備投資（ソフトウェアを含み土地を除く）の計画は、前年度比+2.0%。土地投資を含んだ2018年度の計画では、▲0.7%（製造業+6.0%、非製造業▲4.5%の見通し）。
- ✓ 2018年度売上計画は、大企業・全産業で前年度比+1.0%（2017年度+3.5%）。内訳は製造業が+1.5%、非製造業が+0.8%と増加を見込む。また、中堅企業では、全産業で2.2%と増加の見通し（製造業：+2.2%、非製造業：+2.1%）。中小企業も全産業で+0.2%と増加の見通しだった（製造業：+1.1%、非製造業：0.0%）。

### 【大企業業況判断DI（「良い」-「悪い」）】

DI、 %ポイント	業況判断						変化幅		
	2017		2018				2017		2018
	9月	12月	3月		6月	12月	3月	6月	
	実績	実績	予測	実績	先行き				
大企業	製造業	22	26	21	24	20	4	-2	-4
	非製造業	23	25	20	23	20	2	-2	-3
	全産業	23	26	21	23	20	3	-3	-3
中堅企業	製造業	17	20	15	19	14	3	-1	-5
	非製造業	19	20	14	21	16	1	1	-5
	全産業	18	19	15	20	15	1	1	-5
中小企業	製造業	10	15	11	15	12	5	0	-3
	非製造業	8	9	4	10	5	1	1	-5
	全産業	9	11	7	11	7	2	0	-4

※2017年度9月実績は、2018年3月調査対象企業見直し前の旧ベース  
【全産業全規模 雇用・設備投資判断DI】



【出所】IN情報センター

◎注意事項  
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。